

HP 社の生き証人に聞く

松本 栄寿
横河電機(株)

ヒューレット・パッカード (HP) 社は、西海岸のカリフォルニア州パロアルト市にある。1939 年に二人の若者ウィリアム・ヒューレット (William Hewlett) 氏とデイビッド・パッカード (David Packard) 氏によって資金 538 ドルで創設された同社は、今では 10 万人規模の計測器とコンピュータの総合企業となった。その創始の物語はアメリカのエレクトロニクス中心地、シリコンバレーの伝説となっている。

私は、現代のエレクトロニクス計測器の生き証人ともいえるパッカード氏から、HP 社のたどった道筋を 1 時間にわたって聞くことができた¹⁾。

同氏の話はベル研究所、フィードバック理論から始まり、ゼネラルラジオ (GR) 社のこと、周波数標準と世界を旅した原子標準時計、音声周波発振器、真空管電圧計、高周波標準信号発生器、マイクロウェーブとバリアン社、レーザとクライストロン、定在波測定器、ディレクショナルカプラ、1960 年代の科学計算用カルキュレータ、ソリッドステート数字表示器、レーザで距離をはかる測距儀、オシロスコープのシンクロナイズからトリガ技術への転換、テクトロニク社のこと、水晶による海中の圧力・温度の測定……と話 は 尽 き な っ た。そのすべてがパッカード氏の生涯につながり、また第二次大戦後のエレクトロニク展開の歴史そのものであろう²⁾。

HP 社が発足した当時は、工場はパッカード氏の裏庭のガレージにあり、注文があれば、そこで測定器を組み立てていた。苦境の



中で最初のまとまった注文は、ディズニールンドからの 200 B 音声周波発振器 8 台であった。発振器は最初、映画ファンタジアの制作スタジオで録音機器の調整に採用されたが、1980 年代初めまで使われた。ミッキーマウスが HP 社をディズニールンドのあるカリフォルニアの地に定着させた³⁾⁴⁾。

HP 社は計測器にデジタル技術、コンピュータ技術をいち早く取り入れて成功のもとを作ったといわれている。私はパッカード氏との対談の中で、アナログとデジタル計測器の差について質問した。意外にも同氏は、デジタルは「測定の精度」ばかりでなく、むしろユーザが「測定の速さ」を求めたのに答えたものだと言った。デジタル測定とは、桁数が多くはかれることが特徴であると考えていた私は、パッカード氏から全く新しい見方を学んだ。

ヒューレット氏とパッカード氏は、ともにスタンフォード大学のターマン (Frederick E. Termann) 教授のもとで電気工学を学んだ。ターマン教授は 1930 年代から IRE 学会 (Institute of Radio Engineers) の中心人物で、無線工学の基本を確立して、現在ではシリコンバレーの父と呼ばれている。私は 1912 年生まれのパッカード氏との対談を通じて、電気技術の歴史を知るにはアーカイブスや図書館で文献を調べる以外に、歴史を体験した人物・生き証人の話を聞く大切さを実感した。特に第二次世界大戦中と、その後のエレクトロニクスの発展を築いた人々は、世代交代の時期にあり今が重要な時である。

HP 社にもアーカイブスがあり、社内の文書保管に努めている。創業時の帳簿、製品の製造図面から、創始当時の人々のインタビュー記録、25 万枚の写真などがある。歴史的製品は約 100 点、收藏品として保管されているがそれほど系統的ではない。

注

1) David Packard: *HP Way*, Harper Business, (1995) は聞き取りをもとに作られた HP 社の歴史である。

2) William R. Hewlett: *Inventions of Opportunity*, Hewlett-Packard Company, (1983) からは主要な製品の歴史が判る。

3) *Measure*, HP, Sept.-Oct. (1989), pp.8-11

4) パロアルト市から南 20 マイルのサンノゼ市に“Museum of Innovation”があり、シリコンバレーの歴史とこの地域で発展した企業の先端技術を楽しむことができる。

右上の写真はパッカード氏と私

音声周波発振器 200 B を表紙に置いた *Measure* 誌 1989 年 9/10 月号

